

第2節 歴史を継承し、文化を創造するまち

2 文化

～文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち

<基本計画の目標>

市民がこれまで培ってきた文化の伝統に加えて、新たな文化を創造・発信するために、文化活動の振興を図ります。

<目標指標:市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち」と感じている市民の割合	51.4%	50.3%	52.7%	56.0%	65.6%	52.0%	66.1%	58.8%	53.0%

<6年間の取組の評価>

【経営企画部】

市民サービスの向上と施設の効率的な運営を図るため、指定管理者制度を導入するとともに、市民の芸術文化鑑賞機会の拡充や文化活動機会の充実を図りました。

<今後の方向性>

【経営企画部】

各施設とも地域の優れた芸術文化の創造・発信の場として、さらに有効かつ効率的な運営に努めるとともに、長期的展望に立ち、計画的に修繕を進めます。また、入場者増加の新たな取組を検討します。

公共施設の全市的的配置計画を関連付け関連部署と連携しつつ、(仮称)鎌倉美術館の整備、旧前田邸の活用について、引き続き検討を行います。

鎌倉市文化推進プラン21に基づき、さらに市民の文化活動を促進し、新たな文化の創造、発信を推進します。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

- ・鎌倉は文化面でも多彩な魅力をもつ古都だと言われている。文化資源の保存・活用に尽くされている関係者の努力を評価する。
- ・設定された各指標はいずれも目標値を上回っている。
- ・映画文化の発信地として川喜多映画記念館など、新しい取組を進めた。
- ・文化施設の利用者数が震災時に減少していたが、回復が見られる。更なる増加の為には新しい試みが必要と思われる。
- ・誰もが参加できる文化活動ということで、その機会や場所を提供してきたことは評価できるが、アンケート指標によると、芸術館などの文化施設利用者は6年間で横ばいで、やや減少気味であり、停滞を感じる。
- ・ジャズ祭もよいが、他に鎌倉の文化を発信できるテーマはないか検討すべきである。若い世代が文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。
- ・身の回りでも、文化活動が活発に行われているようには感じず、評価内容からは具体的な取組が見えてこない。何をどう整備、推進したのかが不明なため評価が困難である。

評価の内訳(委員数)						⇒	評価委員会の評価
◎	2	○	4	△	2		○

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・伝統的な文化も継承する必要があるが、文化という分野で推進する必要性を感じなかった。市民生活や教育といった別の切り口からでも十分達成できる概念だと考える。
- ・一口に文化と言えど、現在は生活に関わるすべてが文化と呼ばれる時代となっているため、過去の文化のみならず、新たに発生した文化にも目を向けて事業を実施していただきたい。
- ・新たな文化を創造・発信するためには、若い世代の力を動員する方策が必要である。歴史文化にめぐまれ、進取に富んだ感性豊かな市民、魅力にあふれた個性豊かな鎌倉の文化形成が望まれる。
- ・数年前から課題としてあげられている若い世代の文化活動支援は、核となる市民や企業と協働し、ソーシャルメディアも活用して具体的な取組につなげてほしい。20代～40代の新鋭の文化活動家も表彰されるようになってほしい。若い世代の新たな発想による文化活動を市民に紹介して、参加・協力を得ていくという考えもある。
- ・美術館等のハード整備は、今後の経済環境を見通す中から慎重に検討すべきである。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」に則って、鎌倉芸術館等各文化施設が今後どのように整備・運営されるかに関心を持っている。
- ・イベント活動としてジャズ祭等に限らず、他に鎌倉の文化を発信できるテーマはないものか。若い世代が、文化活動をしたり、鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。
- ・市内の好立地に県立美術館が存在する為、市立美術館を作る場合は内容・立地に十分な検討が必要である。

《この分野に関する総括意見》

- ・市の全体の分野の基礎として重要な概念であるが、分野として挙げて、施策を行うといった性格のものなのであるか疑問である。
- ・文化と歴史は切り離せないものであり、世界遺産登録を契機として、その連携を強化していくべきである。歴史・文化とするか、または生涯学習との統合が望まれる。文化としての切り口で推進する必要はあまりない。
- ・イベントやHWの維持・整備よりも、鎌倉らしい文化の創造にこそ力を入れてほしい。
- ・指標にある各館の利用者数において、年により10万人以上の差が出ているが、その理由が何であったか等を分析し、今後の事業推進に役立てる必要がある。
- ・市民文化祭への来場者が目標値を大きく上回っており、これが新しい文化の息吹と受取ってよいのか。市民文化祭の来場者は、天候により大きく左右されるため、指標とするには適切とは言えない。